

専修学校の留学生支援

ー横浜デザイン学院の取組み事例ー

学校法人石川学園 横浜デザイン学院国際センター センター長 小山 透

KOYAMA Toru

1. はじめに

2008年1月に留学生30万人計画が打ち出されてからすでに4年が経過したが、まだまだ達成できる状況になっていないことは、周知の事実である。日本学生支援機構の「外国人留学生在籍状況調査」によると、平成23年5月1日現在で138,075人となっており、これに同調査の日本語教育機関における外国人留学生数25,622人を加えても164,000人程度となっている。在学段階別で見ると、138,075人の中で、大学院が39,749人、大学学部・短大・高専が71,244人、専修学校（専門課程）に25,463人、準備教育課程に1,619人となっており、専門学校に在籍する学生は、留学生の約15%に達している。1994年から専門士制度が発足し、1,700時間（二年制）以上の課程を修了した者には専門士の称号が与えられるようになり、学士や修士といった学位と同様に日本での就職機会が得られるようになった。さらに、以前は専門士の称号を得た学生であっても、卒業後に一旦帰国すると日本で就職することができなかったが、2011年からは、一旦帰国しても専門士の称号があれば日本で就職することが可能になった。このことは、専門学校の持つ職業教育の重要性が認められた結果であり、留学生をひきつける魅力にもなっている。

しかし、残念なことにアジア各国では、まだ学歴偏重の傾向が強いばかりか、専門学校というカテゴリーがない国が多く、専門士が母国では認められないという現実がある。専門学校の次の課題としては、留学生支援という意味でも、是非、他国で専門士が認められ母国での就職に優位になるような働きがけをしていく必要がある。

一方国内で在籍している留学生に対する支援とは、住居、アルバイト、就職、学習（進学）、生活一般、心のケア等が考えられるが、ここでは、このような環境下で、専門学校が留学生に対してどのような支援が行えるのかを当校の事例を交えながら考えていく。

2. 横浜デザイン学院の状況

具体的な事例に入る前に、簡単に本校の紹介をさせていただく。本校には、専修学校（専門課程本科）、日本語学科（別科）、専修学校（高等課程）があり、2012年5月現在で、14カ国、218人の留学生が学んでいるが、日本語学科の学生と専門課程の学生では在日年数も日本語力も違うため、それぞれに合った支援をしていく必要がある。専門課程には、ビジュアルデザイン科、ファッションデザイン科、マンガ科、総合日本語科が設置され、教務部に所属するそれぞれの担任が中心となり留学生の指導を行っている。その担任と連携を組んで指導を行っている部署が国際センターであり、キ

キャリアサポートセンターと3者で連携を図っている。

2-1 住居支援

これは、日本語教育機関ならばどこでも同じだろうが、日本語学科の学生（一部専門課程の学生もある）は、ほとんどが海外から直接入学する学生であり、来日した日から安心して住める場所の確保が必要である。そのため、入学願書を提出する段階から、入寮希望を確認し寮を手配している。また、面接時や入国前に寮に関する詳しい説明、日本のゴミ分別など、生活環境について等々の説明も行い、来日後に戸惑うことがないように、指導を行っている。この安心感を与えることも、一つの支援であると考えている。寮には最低半年は入居させているが、半年後にマンション等を探す場合には、国際センターに相談させ、取引のある不動産業者を使って安心できる留学生向けマンションなどの紹介を行っている。

また、専門課程に入学する学生は、横浜近隣の学生ばかりではなく、地方の日本語学校から入学するケースも少なくない。地域としては初めてでも、日本での生活には慣れていないため、各自でアパートやマンションを探すことが多いが、その居住範囲は広く実態が掴みにくくなってしまいう傾向がある。そのため、当校では専門課程入学時の住所を学生と一緒に尋ね、外国人登録証の住所に学生が実際に住んでいるのかを調査し、災害時などに安全確認に行けるような体制を作っている。更に引越しなどをした場合には報告させ、新しい住居を訪ねるようにしている。

2-2 アルバイト支援

近年、裕福な家庭の学生も増えてきたため、アルバイトをしなくても生活できるような学生も増えてきたが、やはりまだアルバイトを必要としている学生が多い。当校は学校法人であり無料職業紹介の資格があるため、独自にアルバイトを開拓し学生たちに紹介している。具体的には、国際センターで毎週一回時間を決めてアルバイト先を探し、電話で留学生のアルバイトが可能かどうかの確認を行っている。その後、履歴書の書き方から面接の受け方までを丁寧に指導している。また、キャリアサポートセンターとの連携により、アルバイトからインターンシップにつなげるよう企業と連絡を密に取っている。更に、当校にはファッションデザイン科があり、ファッションビジネスコースでメイクなどについても授業を行っているため、女子学生には面接で好印象を与えられるようリクルートメイクなども教えている。

2-3 就職支援

就職に関しては、キャリアサポートセンターが中心となり、クラス担任、国際センター、企業等と連携をして、入学時から就職に向けての支援を始めている。特に就職に必要とされるコミュニケーション能力、協調性、行動力などとともに、当たり前のことが当たり前に見える人間力（＝凡事徹底力）をキャリアサポートセンターの個別面談とクラス担任による授業で養っていく。

以下に、キャリアサポートの特徴をあげる。

- ・ 方針：自立支援＝自ら考え、決定し、行動できる人材育成
- ・ 母国と日本での就職活動の違い、採用基準の違い、雇用慣習の違いなどや不採用におけるメンタルサポートを産業カウンセラー有資格者が実施している
- ・ 教員がキャリアサポートを兼務する学校が多い中、キャリアコンサルタント有資格

者が常駐し、専任でサポートを行っている

- ・ 広義のキャリア（人生）支援を実施：単に就職を決めるためのサポートではなく学生本人がどのように生きたいのか、そのためにはどうするのかを支援している
- ・ 卒業後でも進路先が確定するまではキャリアサポートを継続している
- ・ 国際センターと協力して、在留資格変更手続等の手厚いサポートを実施している

上記の内容を指導徹底するために、キャリアガイダンスとして最大 30 回（1 / 3 が自己理解編、2 / 3 が就活編）を実施している。これを機械的に行うのではなく毎年のクラス全体のポテンシャルによってキャリアガイダンスの回数、内容、実施時期を決め、個々のクラスに合わせて行うことも特徴と言える。

当校は少人数教育を実施しているため、学生個々との信頼関係を作ることが可能であり、個別面談に重点をおいて行うことができる。その回数は、一人平均 23 回（最大 37 回）に達し、面談を通してコミュニケーション能力、自立できる力を養っている。これらのキャリア教育と授業での実践教育により、即戦力と人間力を兼ね備えた人材として留学生在が日本で就職できるように、全力で支援を行っている。

キャリアサポートの全体像については、別添資料をご参照いただきたい（資料 1）。

2-4 学習（進路）支援

学習支援としては、学生がどれだけ満足できるカリキュラムを提供できるかどうか進路指導がどの程度行えるかという点に絞られる。当校には、前述したが、専門課程と別科として日本語学科（二部制）があり、それぞれの学科ごとのきめ細かい指導が行われている。ここでは専門課程を本科と別科に分けて事例を挙げる。

専門課程では、「モノ作り」の第一線で活躍する講師陣が、学生一人ひとりの個を見つめ、実践で使えるスキルと厳しいプロのマインドを学べるようにしている。そのため、授業時間外であっても課題の制作や言葉の問題も補習しなければならず、留学生にとっては、遊ぶ時間がないほど厳しい状況ではあるが、その苦勞を乗り越えてこそ将来が開けることを理解させ、実践教育を徹底的に行っている。また、産学共同プロジェクトを充実させ、企業研修プロジェクト、課題プロジェクト、商品開発プロジェクトなどを行い、企業が必要とする実践力を養うことはもとより、コンセプトに応じてアイデアをまとめる力や、クライアントとうまくコミュニケーションを図る力も養っている。

上記のようなデザイン系の実践力がもちろん必要ではあるが、留学生にとっては、その前に日本語という壁が存在するのも事実である。そこで、日本語力に対する支援も欠かせない。当校には、総合日本語科（大学・大学院進学コース、実用日本語コース、教師養成コース）及び別科の日本語科があるため、日本語力をつけるための日本語教師が多数在籍している。この日本語教師とデザイン系講師が協力しあい授業で出てくる専門用語などのフォローもするため、多少日本語力に不安がある学生も安心して授業を受けることができている。

では、その総合日本語科ではどのような指導が行われているのかについて、大学・大学院進学コースと実用日本語コースに分けて簡単に述べてみる。

・ 大学、大学院進学コース

第一志望校への合格をコースの目標とし、日本語のみならず日本留学試験対策に重点を置いて指導している。単純に日本語教師が日本留学試験の科目を指導するのではなく、数学なら数学、理科なら理科の専門の教師がそれぞれを担当するので、内容が濃い授業を行うことができ、その結果として、日本語は300点以上、総合科目は150点以上、数学Iは150点以上等の学生を多数輩出できている。更に英語の授業もTOEFL、基礎英語、英語読解というレベル別の少人数クラスに分け、目標ごとの英語を学習する。また、日本語と比較しながら英語を学ぶことで、日本語力を高めながら英語力を高められるようにしている。

・ 実用日本語コース

日本語力をアップさせ就職することをコースの目標とし、日本語だけでなく就職後に必要となるスキルを身につけられるよう指導している。学生個々のモチベーションを上げさせるために、入管等から公表される留学生の就職に関する情報を提供（例えば留学生の在留資格の許可件数で、人文知識・国際業務の在留資格が70%を占めている。業種としては商業分野やコンピュータ関連が多いことなど）し、今自分が学習していることが、どのように将来に結びつくのかを示し、どんな自分になりたいのかを常に考えさせるようにしている。学習内容は、日本語は就職に必須であるN1合格はもちろん、ビジネス対応レベルまで行っている。そのほかに、貿易実務の基本から実務レベルまで、簿記の基本から検定合格レベルまで、PC基本ソフトの修得からビジネス対応レベルまで、と多彩にわたって指導し、正しい日本語から使える日本語へと導いている。

さらに各種検定合格者に対して学習奨励金を支給し、資格取得への意識を高めるとともに、留学生の費用負担軽減を支援している。

総合日本語科 大学大学院進学コース

コースの目標：第一志望校への合格

○実績

学部進学

東北大学、九州大学
横浜市立大学
神奈川県立保健福祉大学
名古屋市立大学
上智大学、中央大学、明治大学
日本大学 他多数

大学院進学

首都大学東京(研究生)
神戸大学大学院(研究生) 他



○留学試験高得点実績

日本語300点以上	10名
総合科目150点以上	9名
数学I 150点以上	3名
数学II 平均点以上	3名
理科平均点以上	7名



○個別科目への対応



外国人留学生
横浜デザイン学院
〒220-0001 神奈川県横浜市中区磯子1-33-6
TEL 045-523-0300(内) FAX 045-523-0302
<http://www.ydc.ac.jp>
E-mail : info@ydc.ac.jp
☎0120-001-097

総合日本語科 実用日本語コース

コースの目標：日本語力UP ⇒ 就職

留学生の就職に関するニュース(入管情報)

- ①留学生の就労ビザ許可数 10,000件前後
- ②在留資格の約70%は「人文知識・国際業務」
- ③「商業・貿易分野」「コンピューター関連」が主な業種

YDC実用日本語コースの学習内容

- ①日本語能力試験N1合格からビジネス対応レベル
- ②貿易実務の基本から実務レベルまで
- ③簿記の基本から検定合格レベル
- ④PC基本ソフトの習得からビジネス対応レベルまで



就職支援体制

- ①就職率 約93%
- ②求人倍率 9倍
- ③自己PR履歴書、エントリーシート、面接指導
- ④各種就職ガイダンスへの引率(状況による)

学習支援体制

- ①学習奨励金
- ②各種検定合格者に対し1~3万円学費補助
- ③PC 一人一台環境
- ④社会見学(税関、工場見学等)
- ④各種試験対策



外国人留学生
横浜デザイン学院
〒220-0001 神奈川県横浜市中区磯子1-33-6
TEL 045-523-0300(内) FAX 045-523-0302
<http://www.ydc.ac.jp>
E-mail : info@ydc.ac.jp
☎0120-001-097

2-5 生活一般

日本語学科の学生に対しては、早く日本に慣れ、生活が安定することを最優先している。そのため学生が来日する際に教職員が空港で出迎え学生寮まで案内し、チューターではないが同じ寮の先輩が到着当日から生活圏の案内を行っている。翌日国際センターを中心にオリエンテーションを行い、留学生生活を安全で安心して過ごすために必要な情報を提供している。また、横浜市や地域のイベント、生活情報、季節の話題などの提供を行い、学習だけでなく楽しめることで心を癒し、アルバイトや人間関係などで疲れている留学生の活力に結びつけるようにしている。

よく言われていることに、留學生が来日してすぐに困ることとして、銀行口座の開設の問題がある。留學生にとっては経済的に安定することが学習の安定につながると考えている。一般的には入国してから6カ月後でなければ、銀行口座を作れないことが多いが、当校の場合は取引銀行との関係で、外国人登録をした時点ですぐに口座を開設できるため、送金を早く行うことができ、結果として学習に打ち込んでいると思われる。

また、近年留學生のメンタルヘルス「心のケア」等が注目されてきているが、当校でも確かに留學生の精神的な弱さが露わになってきていると感じる。このような彼らをどう導いていくのかが課題となるが、相手のことを理解してあげる気持ちを持つ、一番身近にいる教師が温かく見守っていくことが必要だろう。しかし、一つ間違えると情に流され指導を間違えてしまうことがある。それをカバーするのが、第三者的な立場の国際センターであると考えている。現代社会の影響で人からの批判に対しすぐに傷ついてしまうのに、平気で人を傷つけてしまう学生（日本人も含め）が増加しているそうだ。読売新聞東京本社編集局医療情報部部長（精神科医）の南砂さんによると、「特に悩みを多く抱えている学生に多いのが、日本語力の欠如である。何とか教育して日本語力をつけることが問題解決の秘策だ」ということだ。第三者的に見守りながら、学生に近い立場の教師が、しっかり日本語力をつけさせていくことが、留學生に対する最大の支援ではないだろうか。

3. まとめ

専門学校の留學生支援とは、今まで述べてきたような個々の学生に対する支援ばかりでなく、専門学校全体として日本の留学政策に対する改善を求めたり、制度を作ったりしていくことなのではないだろうか。互いに生き残りをかけて競争もしていかなければならない立場でもあるが、一つの学校としてできることは限られている。日本全体で日本留学を魅力あるものにするためには、当然協力が必要であり、その結果として職業人を育て、学生の母国にも貢献できれば、幸いだと考える。留學生を支援するというより、留學生とともに教職員も成長するという気持ちで、今後も接していこうと思う。

資料 1

キャリアサポート全体像

